

無償化だけではなく、待機児童完全0を目指して。



平成 30年の統計では 目黒区の待機児童数は、**330名**です。潜在的な待機児童の数を含めると、さらに多くなると言われております。平成 26年から平成 30年までの 5年間に、保育施設は **1718**か所も増えたにもかかわらず、未だに待機解消ができていないのが現実です。

目黒区の就学前児童（**0歳～5歳**）の数が、この 5年間に **1224**人増えたという喜ばしい数値も見受けられますが、保育施設が増えても、保育士の確保、待遇改善などの根本的な構造改革がなければ、未来を担う子どもたちの受け皿を確保することはできません。

守るべき未来の子供たちへの取り組み。

- ① 待機児童解消。安心して子育てできる目黒の実現へ。人口減少と少子化が進むなか、完全なる待機児童数の完全 **0** を目指し、児童保育所、学童施設の増設、補助金の援助を推進いたします。
- ② 子供たちの学力格差解消支援。学ぶ機会の平等。蛙の子は蛙ではない、トンビが鷹を生む可能性を信じて、学習クーポン、放課後学べる場所の提供など、学ぶ権利と機会の平等への取り組みをバックアップ。
- ③ 子供たちを守る取り組み。いじめ問題、児童虐待撲滅、大人の目のある目黒へ。病院-保育-学校を通じ、自治体ごとの迅速な連携、児童相談所と情報共有網の確立を目指します。

いじめ・虐待を一人一人考える。

児童虐待の疑いがあるとして全国の警察が昨年に児童相談所に通告した **18歳未満**の子どもの数が、前年比 **1万4673**人増の **8万104**人となり、過去最多を更新しました。痛ましい出来事を繰り返してはいけません。身近な近隣の目、周囲の大人の目こそが、子どもたちを守る最大の術と考えます。既に世田谷区など**3**区が、平成 **32**年度の児童相談所設置を目指し、都に対し計画案を提出しました。今後目黒区は基礎的自治体として拡大した権限と責任にふさわしい主体的で個性豊かな自治体行政を展開していくことが求められています。

ごみ紛争、地域問題を解消。



「集積所やめたら家庭ごみが減った」。家庭ごみの集積所を廃止し「戸別収集」を導入したところ、ごみの量が減るという効果が現れ、導入する自治体が増加しております。

目黒区には約 **18,000**箇所のごみ集積所があります。他区のごみを焼却し続ける、大規模な清掃工場があるにもかかわらず、いまだ対応が遅れている目黒区。**23**区においても隣接する品川区をはじめ、特定の個人宅へ長期にわたりごみ集積所を設置する負担は無くなり、利便性の向上や各自のごみ管理に対する意識向上、地域全体の見守り機能も高まると考えられております。ごみ紛争などをはじめとした、目黒区でも相談件数の特に多いごみ問題。日々の地域問題を改善し、区民の生活を守ります。

犬猫・ペットの殺処分ゼロへ。



我が家の愛犬、猫ちゃんをはじめとするペットも我が家の家族です。殺処分率はここ **10**年において犬・猫共に減少傾向です。（平成**29**年において殺処分数は、**43,216**件。**10**年前の約**1/7**に減少。）改善はみられるものの、今後ペットの高齢化も問題となっており、行政においては、人手・収容能力などの確保が困難なため、民間ボランティアと協力し保護および譲渡の間口を広げることが重要です。

保護犬などの里親制度の促進と、ボランティア、シェルターへの補助金、寄付の促進など積極的に行政が動かなければなりません。また老々介護などの心のケア、高齢者医療、心のケア単身高齢者へのパートナーペット制度などの活用を推進いたします。